

-開催抄録-

パブリックデザインセミナー（第3回）：セミナーテーマ・快適

『パブリックスペースにおける快適なくつろぎ空間の提供に向けて』

7月13日、日本大学理工学部駿河台キャンパス7号館742教室にて開催されました

パブリックデザインセミナー（第3回）：セミナーテーマ・快適『パブリックスペースにおける快適なくつろぎ空間の提供に向けて』は、2016年7月13日（水）午後6時より日本大学理工学部駿河台キャンパス7号館742教室にて開催されました。

セミナーに先立ち、天野光一理事長（日本大学理工学部まちづくり工学科教授）が挨拶に立ち、「こ



天野理事長

れまで利用・安全・快適という3つのテーマでセミナーを行ってききましたが、今回は『快適』です。セミナーを通じて公共空間の使い方を支えるモノについてのデザイン手法の提案、製品開発などを皆さんと共に考えてきたいと思います。講演終了後は活発な質疑応答をお願いします」と述べました。

今回のテーマは、PDCが今後展開したいと考えているパブリック空間における快適なくつろぎ空間の提供でした。そこで、都市デザインを専門とし、現在、柏の葉アーバンデザインセンターの副センター長であり、プラスエム計画室代表、東京大学非常勤講師を務められる三牧浩也氏を講師に招き、講演が行われました。

●『パブリックスペースにおける快適なくつろぎ空間の提供に向けて』

柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長・三牧浩也氏



三牧浩也氏

プロフィール  
柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）副センター長 プラスエム計画室代表  
東京大学非常勤講師。  
1977年生まれ。2001年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻終了。同年、(株)日本都市総合研究所入所。都市計画コンサルタントとして公共空間活用に関わる調査、景観形成に関わる調査、各地のまちづくり構想の策定などに従事。2010年よりUDCK副センター長に就任。2012年(株)プラスエム計画室を立ち上げ。技術士(建設部門)。著作に『日本の街を美しくする』（共著、学芸出版社、2006年）、『公共空間の活用と賑わいまちづくり』（共著、学芸出版社、2007年）、『アーバンデザインセンター 開かれたまちづくりの場』（共著、理工図書、2012年）など。

三牧氏は最初に「柏の葉のまちづくり」の基本的枠組みについて触れ、千葉県・柏市・東京大学・千葉大学の4者で策定、三井不動産・URを加えた6者で推進する「柏の葉国際キャンパスタウン構想」というビジョン、そして、そのビジョンを推進する機関である

「UDCK 柏の葉アーバンデザインセンター」という推進機関の2つが核となってプロジェクトが行われていると述べました。

(※写真：三牧浩也講師作成の当日レジュメより引用)



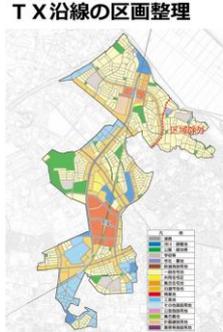
江戸時代 幕府直轄地  
「小金牧(放牧場)」  
⇒近代 開墾地

陸軍飛行場  
⇒米軍通信基地S54  
⇒米軍公園・国の機関  
の集積

東立柏の葉公園  
・東京大学  
・千葉大学  
・国立がん研究センター  
・科学量産研究所、機動隊  
・松尾研機所  
・国交省研機所

三井柏ゴルフ倶楽部  
S36オープン、H13 閉鎖

十倉二工業団地  
S42~S46に造成



宅鉄道に基づく「一体型土地区画整理事業」として、鉄道整備と沿線市街地整備を一体的に実施

柏北部東地区「柏たなか」 ※H26計画変更  
施行者 UR都市機構  
区画面積 約 170ha → 約128ha  
計画人口 約 17,000人 → 約12,800人  
施行期間 平成13年3月26日～平成34年3月31日

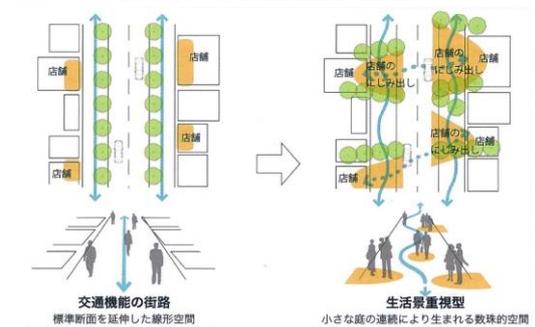
柏北部中央地区「柏の葉キャンパス」  
施行者 千葉房  
区画面積 約 273ha  
計画人口 約 26,000人  
施行期間 平成12年8月25日～平成35年3月31日

セミナーでは、現在柏の葉で進められている『快適な公共空間形成に向けた主なプロジェクト』の具体的な事例がたくさん紹介されました。まず柏の葉キャンパス駅前では「ストリートライフのあるまち」をテーマにして、従来の交通機能重視ではなく、「生活景重視型」で整備された街路空間づくりが紹介されました。

学園の道と緑園の道  
構造のない区画整理に「あとづけ」で構造を与える



空間づくりのコンセプト(オンサイト)  
「ストリートライフのあるまち」 数珠状に生活景を作り出す道路空間



具体的には、まちの中、そして道路の中に「居間をつくる」という考え方のもと、デッキによる領域化、オリジナルファニチャー、照明、日陰づくりなどの事例が写真で紹介されました。

西口線整備のポイント



整備メニュー

- ・自転車専用道整備(自転車と歩行者の分離)
- ・舗装の高質化 ILB/天然石/レンガブロック舗装
- ・高木・低木植栽の充実(駅前広場における緑の大屋根)
- ・くつろぎスペースの整備 ウッドデッキ+オリジナルファニチャー+照明(都市再生特措法)
- ・シンボルサインとパナー整備(都市再生特措法)
- ・利用のためのインフラ整備(電気・水道)

空間づくりのコンセプト(オンサイト)  
「居間をつくる」 デッキによる領域化、オリジナルファニチャー、照明 日陰



(※写真：三牧浩也講師作成の当日レジュメより引用)

ハレの日



駅前広場

次に「屋台プロジェクト」についても紹介されました。屋台プロジェクトの狙いは道路に新たな賑わいの連続を作り、外側の開発エリアに人の流れを誘導すること。プロジェクトでは、オリジナル屋台の制作や、お花見屋台の企画などが紹介されました。その他、「調整池の高質化」の取り組みも紹介され、外周での「居間空間」の創造など、景観面、商品開発面などを含めた視点での取り組みも紹介されました。講演終了後は活発な質疑応答も行われました。



屋台プロジェクト



調整池の高質化



須田副理事長

最後に閉会の挨拶に立った須田武憲副理事長（㈱ジイケイ設計代表取締役社長）が「あっという間の2時間でした。我々は現在の日本の公共空間で、本当に快適なくつろぎ空間の事例を実現できるのかという思いもありましたが、今日の講演での事例を見て、これからのPDCの活動に向けた力と確信を得る思いがしました。また“日陰を作る”という重要性にも改めて気づいたところです」と述べました。その後、場所を移して懇親会が行われ、和やかなひと時を過ごしました。